



暗明 状況 志願 立同 関関 横ばい

横ばい

6.9%減

11.5%減

今春の関関同立四大学の一般入試の志願状況が九日までに、ほぼまとまった。厳しい経済情勢で地元志向が強まる中、受験生の多い阪神間にキャンパスを設ける関西(大阪府吹田市)、関西学院(兵庫県西宮市)の両大学が志願者確保で健闘を見せる一方、京都、滋賀を中心とする同志社(京都市上京区)、立命館(中京区)の両大学の落ち込みが目立っている。

同志社大は前年比6・9%減の四万三千三百五十九人とどまった。心理学部の新設や社会学部、神学部の今出川キャンパスへの移転などの話題もあっただけに、入試課は「昨夏までのオープンキャンパスでは例年以上に受験生が集まっていた。昨秋からの不況が影響したとしか考えられない」と残念がる。

影響、地元志向拡大が不況

立命大は、ほぼ最終に近い八日現在の集計で同11・5%減の八万四千五百九十四人(センター併用型含む)と大幅に落ち込んだ。二〇〇八年度の生命科学部新入生の「特別転籍」問題の影響もあったとみられ、入学センターは「景気の悪化で地元志向が広がった。例年、入学者の半分が近畿圏以外の出身者だが、特に影響が大きかった」と分析する。

一方、関大は同1・9%減の七万七千六百六十五人と踏みとどまり、関学大は同1・0%増の三万五千七百二十人と微増。関学大は聖和大(西宮市)との合併などの話題もあったうえ、「二十日の阪神ならば線の開通の波及効果なのか奈良県の志願者が22%増えた」と言っ

2009年3月10日 京都新聞より

「USAGI 通信はメールでの送信も可能です。

メールでの送信をご希望の方は、

弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。